

【西区】令和5年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

| | |
|-------|---|
| 開催日時 | 令和5年6月12日 15時30分 ～ 17時00分 |
| 場 所 | 西区役所3階3B会議室 |
| 出席者 | <p>【座長】荻原隆宏議員</p> <p>【議員：2名】清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：18名】菊地健次区長、本多由紀子副区長、牛頭文雄福祉保健センター長、山本千穂福祉保健センター担当部長、飛鳥田まり医務担当部長、山浦善宏土木事務所長、和知治消防署長、ほか関係職員</p> |
| 議 題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 令和5年度 西区運営方針 2 令和5年度 西区主要事業の進捗状況 3 西区に係る予算のすがた 4 デジタル区役所の取組 |
| 発言の要旨 | <p>【令和5年度 西区運営方針】</p> <p>【令和5年度 西区主要事業の進捗状況】</p> <p><区制80周年記念事業></p> <p>清水議員：ロゴマークを募集するということが、80周年事業の内容については検討しているのか。</p> <p>檜崎区政推進課長：80周年でどのような取組をするかについては、今実行委員会の皆さんと検討をしている状況である。例えば、スタンプラリーや温故知新のみち案内サインの活用、いろいろなお店の紹介、魅力の再発見などを検討しているが、具体的に検討が進んだら、報告をさせていただきたい。</p> <p>清水議員：西区はいろいろな歴史が詰まった区であると思うので、地元の皆さんの意見を十分に取り入れてもらった80周年がいいと思う。よろしくお願ひしたい。</p> <p><障害のある人も住みやすいまちづくり事業></p> <p>荻原議員：身体上の困りごとがあったときに、皆さんまずは医療機関に行</p> |

くわけだが、その次の福祉への接続については必ずしもスムーズではなく、課題として残っていると指摘を頂いている。私が以前健康福祉局に相談したときは、基幹相談センターの充実をしなければならないということであった。西区においては、それは今どういう状況にあるか。

大津高齢・障害支援課長：基幹との連携ということでは、西区の場合は区役所、基幹相談センターと生活支援センターが三位一体でかなり繋がっている実感がある。特に自立支援協議会という協議体を持っており、その中では、三者が一体となって、西区の障害政策をどうやって進めていくか話し合いが毎月行われていて、今後連携をさらに高めていきたいと考えている。

荻原議員：それぞれのセクションがよく繋がっているその状況をフルに生かしていくことが大切だと思う。西区民にいざ困りごとがあった場合、「こういう内容であればここに相談ください。」と医療機関においても紹介することが出来たらよいと思う。例えば、足が痛くて医療機関に通っている方が、段々歩くのが難しくなってくる、杖が必要になってくる、こういったことに対して、医療機関から福祉にスムーズに接続できることが必要だ。医療機関からも、福祉への接続がしやすい、より情報が入手しやすい状況をつくる、そういった取組についてはどういう状況か。

大津高齢・障害支援課長：医療と福祉、もしくは医療・介護というところは、連続性の点で、まだまだ足りてないところがあると思う。高齢者の方でも、例えば認知症の初期と言われたとき、どう繋げていくかというとき、医療、介護、福祉が全部繋がっていないといけないと考えている。特に整形外科などでは、手帳の取得というのが最初の関門になるかと思う。医療機関で事細かに福祉サービスの説明は難しいと思うが、まずは手帳の取得を促してもらえるよう、我々もうまく繋げていければよいと考えている。そうすれば、行政の方でも受け止められるし、基幹相談もそういったことを受け止める相談先としての位置づけがあるので、まずは全体で受け止めて、区役所なりに繋げていけば良いと思っている。また、西区の相談先ということでケースファイルの相談に乗った機関の一覧表を作って配布しているが、まだまだ知られてないので、もう少し頑張っていきたい

と感じている。

荻原議員：そのケースファイルの一覧表は私もいろいろなところで見しており、非常に便利だと感じている。そういう福祉への接続ができる機会をより増やしていただきたい。発達障害などで、地域療育センターを利用したくても、なかなか最初の診察まで到達できないという話もある。相談の仕方を変えて何とかサービスを受けやすい形にしようとしていると思うが、これも若いお母さんお父さんにしてみると、どこに相談したらいいのかというのが最初の悩みだと思う。基幹相談支援センターで、発達障害に関するあるいは知的障害やその他の障害に関して相談を受けて適切な福祉サービスに繋げていくとことを、より広げていく取組、「基幹相談支援センターがあるので何かありましたらどうぞ」ということを伝えていく取組はどういう状況にあるか。

大津高齢・障害支援課長：基幹相談の広報で言うと、区で配布している障害福祉の案内がまず入り口になっており、それを手に取ってもらえると、相談先一覧の中に基幹相談や他の機関について確認できるようになっている。療育の方は初診まで3ヶ月以上時間がかかり、その間不安な状態が続くこともあるかと思うが、お話を聞くことは随時行っていて門戸が開かれているので、適宜相談いただきたいと思う。ご指摘の通り基幹相談そのものの知名度が低い点については、より一層周知を図っていきたいと考えている。

荻原議員：全市的にも基幹相談支援センターの周知度合いが足りてないと思う。区役所と基幹相談支援センターがしっかりネットワークを生かして区民の暮らしを支えていただきたい。何かあったら気軽に相談してくださいと積極的に展開していただけたら大変ありがたいと思う。

<地域連携推進・回遊性向上事業>

清水議員：西区緑花サポーターとはどういうものか、教えてもらいたい。最近、子供たちの間でそのボランティアや奉仕する気持ちが薄れてきているが、平沼の地域では、ジュニアボランティアということで小中学校の頃から奉仕の活動に取り組み、自然とそ

のような思いが伝わっている気がする。また、横浜では、2025年にアフリカ開発会議、2027年に「GREEN×EXPO 2027」があるが、子供たちに何を残せるかが大切だと思う。「GREEN×EXPO 2027」を横浜でやることにとても意味があると思うし、成功させなきゃいけないと思う。今の段階から、様々な形で、これに繋がる事業を行っていくことになると思うが、ボランティアの機運の醸成を行いながら、「GREEN×EXPO 2027」に向けてつなげていければと思う。

檜崎区政推進課長：西区緑花サポーターの活動では、区内の小・中学校の皆さんなどに花植の活動などを行っている。このような活動に参加してもらうには、西区に愛着を持って西区を好きになってもらうことが大事だと考えている。まさに区制 80 周年もその良いチャンスだと考えており、こういったイベントなども活用しながら、皆さんとボランティア活動も含めて連携した取組を進めていきたい。また小中学校の先生は学習活動の中で様々な取組をしており、授業の中で西区について、80 周年について考えてみようという提案もいただいている。そのような活動とも連携して進めてまいりたい。こうした取組をしながら、「GREEN×EXPO 2027」に向けた機運醸成を行っていきたくと考えている。

荻原議員：自治会町内会の後継者不足について、自治会町内会の皆さんの苦勞を感じている。現在、コロナが落ち着いてきて、地域のお祭りなどのイベントを再開しているところであり、先日、稲荷台小学校でもお祭りがあった。非常に賑わっていて、皆さんそういうイベントを求めていたと思うし、これから地域にとって必要なのだと思う。お祭りなどでは様々な備品をその会場に運ぶ作業があるが、ここに皆さんが非常に苦勞していると実感した。ぜひこの点を区役所で可能な限り自治会町内会のイベントの際にお支えいただけたらありがたいと感じた。例えばそのテントを張るときのお手伝いとか、テントそのものを町内会の倉庫から、その会場に運搬する、それをまた撤収して元に戻すといったことをお手伝いしていただくというようなことが可能かどうかも含めて、今後の自治会町内会の取組に対する支援体制についてお伺いしたいと思う。

檜崎区政推進課長：自治会町内会の後継者不足については、各課連携して
どういう取組ができるか全庁的に検討している状況である。例
えば地域づくり大学校においては、実際に地域で活動している
皆さんをアドバイザーとして迎えて、地域ではこういう活動を
しているのでぜひ一緒にやりましょう、といった参加者と地域
との連携を強化するような試みを考えている。地域づくり大学
校修了生の皆さんを中心に、地域では、子育て関連のこと、保
護者の皆さんがほっと一息つけるような場の創出など様々な
活動をされているので、ぜひ今地域で行っていることに結びつ
くような活動にしていきたいと考えている。

大益地域振興課長：地域振興課は区連会の事務局で自治会町内会の事務全
般を担っている部署であるが、連長さんや町内会長さんたちと
意見交換しながら、どういった要望があるのか、支援ができる
のか、地域の皆さんと一緒に話をしていきたいと思っている。
あとは、区として、若手の人が地域活動に興味を持ち参加しや
すくなるようなきっかけ作りみたいなところを支援できれば
と思う。町内会業務やお祭り、防災活動など身近な地域活動を
知ってもらうことも大事だと考えており、それにより、若い人
の敷居が低くなり町内会活動に参加するようになってくれれば
ありがたいと思う。地域の皆さんと一緒に考えながらできる
ことに取り組んでまいりたい。

荻原議員：若い世代の方がイベントなどの担い手になれるかについては、
自治会町内会の皆さんが悩んでいるところだと思う。若い世代
はどうしても休みが取れない、プライベートな時間が十分に取
れない、平日は夜遅くまで仕事があるという状況の中で、地域
活動にまで余力があるかについては、自治会町内会の皆さんが
よくわかっていることだと思う。そういう意味で、区役所が支
えられるところは支えてもらいたいと思う。イベントを進める
にあたって、地域振興課が地域の話し合いの中に入って議事を
まとめたりしてくれていると思う。その中で出てきた解決でき
ないことについて、区役所が積極的に支えてもらえたらと思
う。例えば重い物を運搬するなど、どうにも解決できない、車
がなく重い物を持てる人がいなくてできない、物理的にそう
いう課題でイベントが行えなくなることは残念なことだと思う。

ぜひそこを支えてもらえたらありがたいので、よろしく願いしたい。

本多副区長：地域でお祭りをやっているのと荷物を運ぶ人が本当に必要だと思う。キーパーソンが誰で、この人に言うと仲間を集めてもらえるなど、そういう地域の核になる若い方がいると思う。地区支援チームなどでケアプラザや社協さんとも協力しながら、ある意味では人材のストック、データベースというか、いろんな人に繋いでいくことが大事だと感じている。先日のお祭りでは、子供たちとともに保護者も多く来られていた。例えば小学校のPTAの方で、この日だけボランティアで来られる方がいるか呼びかけることも、今後はできるかもしれないと感じた。いろいろな地域資源を繋ぎながら、人を見つけ出しながら、発掘しながら、我々も一緒に取り組んでいきたいと思う。引き続き地区支援チームを中心に頑張っていきたい。

荻原議員：地域と区役所の一体感をそういうところからも繋げてもらえれば、後継者が生まれてくると思う。ぜひ地域を助けてもらえたらありがたいと思う。

清水議員：自治会町内会のなり手不足というのは本当に重要な問題だと思う。先日、神奈川区にある須崎神社で、宮ヶ谷や南軽井沢の辺りでお祭りを行った際、小中学生がお手伝いでいっぱい来ていた。子供たちはお祭りが好きだし、やりたい人がいっぱいいると思う。お祭りは、単におみこしを担ぐというだけでなく、なり手不足のきっかけになる意味での行事として、昔からの優れたものだと感じた。また、西区みなとみらいに神奈川大学がやってきて、連携していることはすごく特徴的なことだと思う。何かトピックスやPRがあったら教えてほしい。

檜崎区政推進課長：神奈川大学との連携においては、昨年度は学生の方が地域づくり大学校に参加いただいた。その後、地域のこども食堂、みんなの食堂の活動等に参加いただき、こういった形で地域活動に参加いただいていることが一つPRのポイントかと思う。今年度は地域の課題解決に向けた課題解決型学習ができないか協議をしている状況である。

清水議員：こども食堂を区内の複数箇所で行っており、行く先々で、こども食堂を担当されている方、作っている方に対して給食の調理

員さんと共通したパワーを感じている。こども食堂をされている方々は作ることが好きでそのことに喜びを感じてくれると思う。先日もお肉の寄附があったらしく、それを揚げて、カツカレーをつくり大繁盛していた。こども達も一人で食事をするのではなく、誰かと食事ができてよいと思うし、こういったパワーを地域活動に取り入れていければ良いと思う。こども食堂の食材の寄附については、フードバンク・フードドライブがあると思う。寄附してくれる方は多いと思うが、どこに行けば良いのだろうか。

岩崎福祉保健課長：それぞれの地域で様々な形でこども食堂を行っており、作っている方も受け取る方も本当に嬉しそうにしていると思う。また社会福祉協議会で賞味期限が近いものなどを集めて、こども食堂の方に渡すというような繋ぎ役もやられており、それぞれの地域で必要な担い手さんと協力し合いながら、こども食堂を運営している状況である。

牛頭福祉保健センター長：第4地区で4月に行われたこども食堂、みんなの食堂と言うが、カツカレーを300食程度出していたと思う。フードバンクの方から社協を通じてお肉をもらって、それを提供したと聞いている。そういった食材の有効活用において、我々の方も社会福祉協議会と協力しながら、支援しながら進めていきたいと思う。

清水議員：社会福祉協議会を通じなくても、寄附したいものがあれば区役所窓口でも良いのか。

海老澤資源化推進担当課長：西区では、資源循環局西事務所で賞味期限前の食品を受け付けている。お持ちいただいたものは、直接こども食堂などに寄附するのではなく、社会福祉協議会を通じてのお渡しになる。

<スポーツ振興事業>

荻原議員：パラスポーツやインクルーシブスポーツについて、西区で積極的な展開をしてもらいたい。北部にある横浜ラポールは立派な体育館だが、横浜市が大きいので、ラポールだけでは足りない状況がある。上大岡ラポールが出来たが、規模的には新横浜にはかなわないと思う。かつて市民局に委員会でパラスポー

ツの質問をしたときは、地域におけるパラスポーツの展開をしっかり取り組んでいきたいと答弁があった。これについては各区で努力をしていくのも一つ求められる側面だと捉えているので、ぜひ西区で様々な可能性を探ってもらいたいと思っている。現状ボッチャやフトゥーロが行われているが、パラスポーツについて広く展開してもらえればと思う。それから、小学校以外の施設においても、地区センターなどでボッチャが行われているので、そういうところと連携をしてもらえればと思う。パラスポーツにはバスケットボールやテニスなど様々あるので、それらも含め、区役所から積極的に発信して、区民の皆さんが参加するようにしてもらいたい。現在の取組について教えてもらいたい。

大益地域振興課長：先日の藤棚まつりでもボッチャのブースがあって、私はそこで初めてボッチャを行った。区民に知ってもらう上で、そういうイベントで行っていくこと・行ってもらうことは大切なことだと思う。中区が先行してインクルーシブスポーツ体験を、去年、今年と行って、中区でも、単純にインクルーシブスポーツ体験を単体で行うと、参加者が少ないと聞いている。そのため、中区はウォーキングフェスティバルのゴールに合わせて人が集まるような仕組みにして多くの人が体験できるようなやり方をとっている。これが今 18 区の中で一番進んでいる取組だと思うが、西区でもそういったいろいろな方法を検討していきたい。まずはスポーツ推進員さんに体験してもらおうなど、地域の人と一緒にできるように普及できるように頑張っていきたいとは思っている。

荻原議員：私自身も初級パラスポーツ指導員の資格を持っていて、先日横浜市パラスポーツ指導員の総会に参加した。総会資料の中に指導員が参加したイベントも紹介されており、中区のインクルーシブスポーツ体験も記載があった。パラスポーツ指導員にイベントのお手伝いを依頼すると、指導員がその協会から派遣される仕組みになっているので、西区も指導員に来ていただいて、積極的にインクルーシブスポーツ・パラスポーツの展開をしてもらえたらと思う。

<西区ヨコハマ3R夢推進事業>

荻原議員：喫煙禁止エリアについて、東京都港区は公の空間は全部喫煙禁止になっており、こういう取組が横浜で増えると良いと感じた。特に都心においては重要な取組だと思っており、横浜駅やみなとみらいがある西区としては、公の空間における喫煙禁止というのは積極的に広げてもらいたいと思う。

本多副区長：横浜駅はターミナル駅として多くの乗降客を抱えており、駅周辺は来街が非常に多くなっているため、路上喫煙や歩きタバコについてはできる限りないように安全で快適な空間を作りたいと思う。一方、まだタバコを吸う方、喫煙習慣のある方が2割いるので、現在のところは、吸う方にも一定の配慮をしながら進めている状況である。資源循環局と連携しながら、青空喫煙や受動喫煙を防止する意味で、各喫煙禁止エリアを順次拡大をしていき、一方で、吸う方がどこで吸えばいいかわかるよう、喫煙所も設けながら分煙できる環境を作りたいと考えている。喫煙禁止エリアの拡大をこれに止めずに進めていきたいと思っている。

荻原議員：特に公道や橋において受動喫煙防止の意識を高めることは非常に重要だと思うので、ぜひ都心中の都心の西区が横浜市を引っ張ってもらいたいと思う。

清水議員：タバコを吸わない人が多くなっており、喫煙するにはどこ行ったらいいかわからないこともあると思う。具体的な喫煙場所の情報提供などは、今の段階では行っているのか。

本多副区長：喫煙場所については、例えばホームページですと、JT（日本たばこ産業株式会社）が作っているクラブJTというホームページがありまして、そちらは喫煙場所をマップ上ですぐ見られるようになっている。公共の喫煙場所にとどまらず、お店でやいろいろな喫煙できる場所が網羅されているので、そのようなものを案内していく必要があると思っている。

清水議員：竹パウダー配合カトラリーセットについてPRしてもらいたい。

海老澤資源化推進担当課長：これはプラスチックに竹繊維が配合されたものになっている。竹は農薬や化学肥料を必要とせず地球環境に優しいこと、成長が早く安定的に利用できること、そのようなものを配合することにより、プラスチックの使用率を抑えられ

るようになっている。

清水議員：竹パウダーをPRするというよりは、例えば、学校の内装に道志村の間伐材を使っており、木材が子供たちの情緒に良いというたような、そういう結びつきのある言い方はできるのか。

檜崎区政推進課長：プラスチックの削減というのはSDGsの観点からも非常に重要なことだと思う。学校の皆さんと、そういったSDGsの観点のいろんな活動をさせてもらっているんで、そういったところでPRできればと思う。

清水議員：いいものだと思うが、竹パウダーをPRするヒントが欲しいのが正直なところなので、マイクロプラスチックを減らすことは全てSDGsの中に入っていると思うが、具体的にビーチクリーンをやろうとか、そういったことに発展していった方が良いと思う。以前は、JR横浜タワー2階の最高の立地で啓発活動を行っており、こういう場所で行えるのかと感心した。あそこでまた実施の計画があるようなので、具体的な取組につながるよう頑張ってもらいたいと思う。

<地域防災活動推進事業>

荻原議員：みなとみらい本町小学校が補足的避難所として指定されたことについて、皆さんが苦勞いただいて、指定されたことに深く感謝している。避難所として、新たに設定をされるので、設備をこれから整えていくことになるかと思うが、取組状況についてはどうか。

菊地区長：通常防災拠点と同様に学校にお願いして、防災倉庫を置き、そこに補充物資を入れ、何かあった際には、取りに来ていただく体制をとっている。通常防災拠点であれば運営委員会があり地域の方々が運営する形になっているが、補足的避難所であり運営委員会がない状況であるため、何かあった際には、まずはみなとみらいのマンションの方々と連携しながら、先生方や避難所に来られる方々に運営していただく、その上で、行政もみなとみらい本町小学校に行き、支援していくというような体制をとっていくことになる。

荻原議員：防災倉庫の中に揃えておくべき備品とその数量について、地元の方と調整しているかなど、状況を教えてもらいたい。

吉川総務課長：開設に向けた話し合いを地域の方と行っている段階で、必要なものの整備について調整している状況にある。

【西区に係る予算のすがた】

清水議員：区づくり推進横浜市会議員会議は、自主事業の1億円をどうやって使っていくかを考える場という認識なので、それが西区に係る予算全体の2.3%にすぎないとなると、少なく感じてしまう。円グラフの表現の仕方を工夫してもよいと思う。

吉川総務課長：円グラフの表現で工夫できるところについては、今後、対応していきたいと考えている。

【デジタル区役所の取組】

清水議員：西区がデジタルのモデル区になり、書かない区役所に取り組んでいることは多くの方が知っていると思うが、この書かない区役所と合わせて、寄り添う区役所ということを付け加えてもらえたらありがたいと思う。自身もあまり得意でなかったが、活動費などをパソコンで入力しないといけないことがあり、何度も取り組んでいるうちに、自然にできるようになった。区民の方にもデジタルの便利な面に慣れてもらい、活かしていくことが必要だと思う。自治会町内会のなり手不足、これとデジタルがうまくマッチングできないか常に思っている。年配の方でも、メールやLINEを早く返したりするなど、得意な方は多いと思う。年齢に関係なく得意な人がいるので、ITが扱える方が上とか下とかということではなく、そういった方の力も貸していただき、みんなで便利な時代に入れればと思う。自治会町内会を考えると、ヒントがありそうな気がしている。

菊地区長：デジタル区役所というと本当に冷たく見えてしまうと思うが、デジタル技術を活用して寄り添っていくことが大切だと思う。コロナで3年間顔の見える関係ができなかった中で、80周年もあるが、デジタル技術を活用して繋がりを強化することを一番の目的にしている。区民の方々に寄り添う中でデジタル技術を活用して、いろいろな連携がはかれるような取組を進め、より安心して生活して幸せになってもらうことが大事だと思っている。具体的な取組について、今後も、進めていきたいと思

っている。区民の方を支援する場面での活用や、新たなつながり、気づきに繋がるようなデジタル技術の活用ができるようにしていきたいと考えている。

清水議員：動画の作成・活用の中で動画を用いた電話対応の効率化とあるが、これはビデオ通話のように区の窓口が対応するという意味か。

檜崎区政推進課長：ビデオ通話の取組については資料ではAの地区センター等で画面を通じて繋げるというところになる。今回の動画の取組というのは、例えば手続きの仕方などを動画で案内して、自宅からでも見られるようにするなど、何回でも案内できるようにするといったメリットがあると考えている。

荻原議員：私からも同じことを要望したいと思う。デジタルを進めるにあたり、逆にそのことによって行政との溝が生まれてしまうなど、地域との関わりがなくなることがあっては本末転倒なので、そのようなことに繋がらないよう配慮してもらいたい。デジタルの操作にお困りの方がいると思うし、十分に配慮した展開をお願いしたいと思う。デジタルデバインドという言葉があるが、その範囲は広いと思う。きめ細かな配慮が必要になってくると思うので、その点は私からもお願い申し上げたい。続いて、このデジタルの活用方法として、一人暮らしの高齢者の方々など、福祉的側面でのデジタルの可能性を追求してもらえたらありがたいと思う。昨年特別支援学校に視察をさせてもらったときに、デジタルのすごさを実感した。タブレットに、様々な世界遺産などがワーッとすぐ出てくる、今度はどこへ行こうか、ブラジルに行こう、今度はインドネシアへ行こうということで、デジタル上で取り組んでいて、児童生徒たちも顔をキラキラさせながらタブレットに見入っているのが、こちらからもわかった。他にも英語を勉強するときデジタルを使ってすぐに質問したい英文をつくれるなど、デジタルだからこそ可能になることがあると思う。福祉の世界でどういう可能性があるか、探求してもらえたらありがたいと思っている。先ほどもあったように自治会町内会と繋がっていくことも非常に可能性があると思うし、デジタルにできることについて、モデル区として探求して発見してもらえたらありがたいと思う。私自身も

学習しながら、いろいろな方法についてお話させてもらいたいと思うし、皆さんの力で、西区から発信するデジタルの新しいあり方を見つけてもらいたいと思う。

菊地区長：横浜市にデジタル統括本部ができたが、区民市民の方が困っていることは何かということ、区民市民と接している現場である我々区役所でないとわからないと思う。わかっていないことも多いが、いろいろな場面で、区民が何に困っているか、どういところでデジタル技術を有効活用できるかを知った上で、モデル区として実証実験をして取り組んでいきたいと思う。不安に感じている方の理由についてもモデル区として、把握しなければならないと思っている。18区に横展開していく中で、不安を持たれている方に対してどのような取組ができるのかについても、統括本部にと共有して全市展開をしていくことがモデル区としての役割だと思っている。そこについても挑んでいきたいと思っている。

清水議員：デジタルとカーボンニュートラルを結びつけることができるのではと思っている。今横浜市で立ち上がって、各局や常任委員会などで取り組もうとしているが、デジタルを進めることと、脱炭素、カーボンニュートラルというのは方向としては同じかと思うので、考えてみてもらいたい。

菊地区長：デジタルも脱炭素も誰1人取り残さないというところは、SDGsの一環かと思っているので、具体的な取組ができるかこれから考えていきたい。

【その他】

清水議員：福祉保健センター長には、今後のコロナの見通しについてうかがいたい。それから、西消防署長には、先日6月2日に豪雨があって、一本松小学校で避難所が開設されたと思うが、その際の避難所の様子や対応について教えてもらいたい。

牛頭福祉保健センター長：新型コロナについては、5月8日以降5類になって以降微増で推移している。やはりワクチンや医療体制も3年前に比べれば充実している部分があるので、変異株など先が読めない部分もあるが、世界の状況なども見ながら、取り組んでいきたいと思っている。

| | |
|-----|---|
| | <p>和知西消防署長：先日の6月2日の大雨警報の対応については、一本松小学校に避難所を開設したことは、区役所の総務課からお話をさせてもらいたいと思う。消防の対応としては、当直の体制の中で活動を行った。立木の倒木や窓ガラスの破損などに区役所と調整をとりながら、対応にあたった。災害の対策については、規模や切迫の度合いに応じて動員をかけたりすること、消防職員の体制をより厚みを増した対応をとることは今後も進めてまいりたいと思う。</p> <p>吉川総務課長：6月2日の大雨警報の対応については、事前に豪雨予測がされていたので、6月2日の夕方から一本松小学校を避難所として開設した。崖があるお宅にはこちらからお伺いして一本松小学校が空いていることをご案内した。皆さんしばらく様子見たいということもあり、実際に避難をした方はいなかった状況である。</p> |
| 備 考 | |